

第4回 ICCC 勉強会「地域でチームをつくる」

(1)概要

①目的

- ・個別または事業所別に抱える困りごとから地域課題を抽出・共有することができる
- ・岩手県がめざす方向性を地域の支援者と共有することができる
- ・社会資源マップによる地域での実働に活かすための資源と方法を可視化・共有することができる

②開催日時および場所

- 1回目:令和6年5月17日(金)11時～16時 宮古市地域創生センターうみマチひろば 3階研修室
- 2回目:令和6年5月21日(火)11時～16時 ふれあいランド岩手 ふれあいホール
- 3回目:令和6年7月23日(火)11時～16時 釜石市市民ホール TETTO ホール B
- 4回目:令和6年8月6日(火) 11時～16時 北上市総合福祉センター第1・2研修室

③参加者

- 1回目宮古会場 13名(会場参加6名・オンライン参加7名)
- 2回目盛岡会場 27名(会場参加12名・オンライン参加15名)
- 3回目釜石会場 9名(会場参加3名・オンライン参加6名)
- 4回目北上会場 13名(会場参加9名・オンライン参加4名) 参加総数 62名

④内容

- ・ワーク 1「日頃の困りごとをフレームワークしよう」※就園・就学に係る業務上の困りごと
- ・行政説明「岩手県がめざす地域づくり～医療的ケアアドバイスチーム事業について～」
- ・講演「令和6年度 岩手県医療的ケア児支援センター主催事業について」
- ・ワーク 2「地域の社会資源マップづくり」

(2)実施概況およびアンケート結果をもとにした振り返り

複数会場かつ現地とオンラインのハイブリッド開催により、参加形態への満足度は96%であった。

医療的ケアアドバイスチーム事業に対しては、地域の支援者が【実行可能性に対する不安】や【具体策の提示に対する要望】【チーム形成に対する期待】を抱いていることが明らかとなった。これは、地域の実情を把握している支援者が、実践を前提として考えるからこそその前向きなものと捉えることができた。

また、主催事業説明を通して、【本人・家族の思いを含む実践事例】や【コーディネーターの思い】を知ることへのニーズがあることがわかった。

今回はじめて導入したグループワークでは、【地域における実践を知覚すること】や【他地域の取組みを共有すること】を通じて、地域資源に限りがある中で【既存の地域資源を知覚し活用法を考える】ことや、【今後の支援方略に対するイメージを形成すること】から、実働に生きるヒントを得ようとする様相を捉えることができた。地域の支援者が能動的に参加できる形態で実施したことで、「さまざまな気づきや他地域の工夫を知ることができた」などのように、支援者同士の交流や情報共有の機会となり、ICCC勉強会の意義や継続に対するニーズが伺えた。

【参考1】各プログラムに対する参加者の満足度

	非常に良かった	良かった
行政説明	21%	79%
主催事業説明	36%	64%
ワーク1・2	47%	53%

(3)今後の課題

各地域で支援者らが蓄積してきた実践例を還元する機会をもつことが、地域の支援者のさらなる実践を生むこと(体制構築)につながる糸口になり得ると考える。また、地域の実態を把握し、地域が必要とする形の研修内容および構成により、持続可能性のある地域支援体制整備に寄与できると考える。今後は、地域の支援者を主体とした実施形態の在り方を検討し、支援者にとってより良い機会となるよう工夫を重ねたい。

【参考2】会場の様子



【参考3】ワーク2 地域の社会資源マップ成果物

